

留萌ロータリークラブ 会報

2006▶2007
WEEKLY REPORT

会長/中川 勝美 幹事/対馬 健一



率先しよう

2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ

留萌ロータリークラブ会長テーマ
魅力ある明るく楽しいクラブは、
ロータリーを知り、
会員家族との親睦から

No. 2280 第41回 5月23日

プログラム

- 本日
来賓卓話 留萌ヤクルト 販売㈱
代表取締役社長 宮尾幸之助様
- 次週予定
来賓卓話 健康プラザ江戸薬局
代表 江戸 雅夫様

- 会員誕生日
5月28日 佐藤 喜一
- ご夫人誕生日
5月27日 角 朱実

出席委員会報告

前 例 会	会員総数	51名
	出免会員	7名
	欠席会員	0名
	出席率	100%

前 々 回	第38回	4月25日
	欠席会員	11名
	メイクアップ	7名
	修正出席率	90.91%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



3分間情報

情報委員会 河部会員
「心に残るロータリアンの言葉」から
〈まことの幸福は人助けから〉

まず最初に、あなたをロータリーに引き付けたものは何でしたか？単に親睦を楽しむことでしたか？それともあなたが地域社会で何か意義ある仕事に参加することでしたか？あなたのロータリークラブの会員で、誇りをもって交際出来る人々について一寸考えてみましょう。ロータリアンを一味違った男や女に仕立てて行くの何でしょう？ロータリアンは自分の人生にある種の幸福感と深い満足感をもっているようにみえますが、それはなぜでしょう？

個人的な喜びや、満足感と幸福を求めることは万人共通の目標です。だが真のロータリアンとは、他人に奉仕し、人助けをすることによって得られる大きな満足と尽きせぬ果報を発見し

た男達女達です。

ロータリーの理想の真髄は、何ら個人的見返りを求めることなく進んで他人に援助の手を差し伸べることです。驚くべきことですが、我々にとって最高の幸福感は、他人のために役立つように、また自分がこの世の務めを終った後まで永續するような目的のために惜しみなく自分の時間と労力と財力を捧げる時に得られます。まことの幸福は人助けからということをロータリアンは発見します。

助けを求める真剣な声に応えてあげれば、何ともたとえようのない心の充実感に目の覚める思いがするではありませんか。幸福 - それは恐らく人間すべての真底からの熱望 - それが他人を助ける、という行為によっていともたやすく手に入る、という途方もない秘訣と普遍的真理をロータリアンは分かち合うのです。

クリフォード・ダクターマン
(1992 - 93年度 R . I .会長)から



プログラム……………

《記念講演》「ロータリーと私の人生」

国際ロータリー第2510地区

パスト・ガバナー 伊藤長英様

(財)ロータリー米山記念奨学会常務理事(苫小牧北RC)



私のガバナー年度に留萌RCの会長をしておられた、現ガバナー補佐の澤田茂様よりご指名を頂き、久しぶりに留萌に参りました。私が最初に留萌に参りましたのは、ガバナーに就任する前に石垣ガバナーの代理としてローターアクトの地区協議会に出席した時です。次に公式訪問に伺った際、新世代委員会担当の「ふるさと・わくわく塾」に参加し、子供達やロータリアンと一緒に初山別村に泊まり、翌日は羽幌RCの公式訪問に伺ったことを記憶しています。またガバナー年度の終わり近くになって小平RCを訪問し、当時の川森会長さんはじめ第一分区の数名の方と協議を行い、クラブの存続を決定して頂いたという懐かしい思い出があります。早速本題に入らせて頂きます。

私は、今年10月26日に満80歳になりますので、この際自分の人生を振り返り、そして後半はロータリーとの関わりをお話したいと思います。

私の父は大正11年に東京大学医学部を卒業後すぐに北大第 外科の助手となり、その後札幌の天使病院の外科に勤務していましたので、昭和2年の天使病院の住宅にて生まれました。私が5才の時父が東京の病院に就職しましたので、小学校・中学校は東京でした。当時は軍国主義一色の時代ですから、小学生の頃から海軍に憧れ、私の夢は、連合艦隊司令長官であり山本五十六でした。昭和15年に府立一中に入学し、中学2年生のとき昭和16年12月8日に日本は太平洋戦争に突入しました。

私は目標実現の第一歩として、海軍兵学校への入学を目指しました。中学4年生の昭和18年の夏に受験して合格し、昭和18年12月1日に広島県江田島の海軍兵学校に入校。当時16歳になったばかりで、今の高校1年生の時ということになります。その頃の戦況はというと全く不利な状況でしたが、国民には全く知らされてい

ませんでした。しかしそういう時代ですから、将来戦死するだろうという覚悟は持っていました。昭和18年12月14日に父が病死し、私は入校教育の最中に葬儀に出席するため東京に帰る羽目になりました。葬儀を済ませるとすぐ江田島にトンボ帰りし、厳しい訓練と学業の連続である入校教育に戻りました。したがって、父の死を悲しむ暇はありませんでした。

海軍兵学校の生活についてお話ししましょう。毎朝ラップで起床し、ラップで就寝するまで、学業と訓練の連続です。海軍には五省という標語がありました。

- 1) 至誠に悖るなかりしか。
- 1) 言行に恥ずるなかりしか。
- 1) 氣力に欠くるなかりしか。
- 1) 努力に憾みなかりしか。
- 1) 不精に互るなかりしか。

毎日夜の自習の終わりに、全員で五省を唱えて1日の反省をしたのです。

昭和19年7月に最初にして最後の夏期休暇があり、家族は北海道の伊達に疎開してしまっていたので、伊達に帰りました。家族と会えるのはこれが最後という覚悟でした。昭和20年8月6日、広島に原爆が投下された時、江田島から茸雲が良く見え、今でも脳裏に焼きついています。8月15日に終戦となり伊達に帰ってきました。その途中広島焼け野原を見ましたし、汽車もひどい状況で窓から出入りする有様でした。函館連絡船もなく何とか貨物船に潜り込んでやっと伊達にたどり着きました。その時17歳10ヶ月でした。

しばらく茫然としていましたが、これからの進路について迷いました。結局は父が、私が医者になるのを望んでいた事を知り、医者になる決心をしましたが、戦後の混乱期でしたので、昭和21年9月になって漸く北大予科医類2年の

編入試験を受けることが出来、2人だけ編入することができました。入学したものの、経済的には大変な苦労をしました。学費・生活費とも殆どアルバイトで稼いだのです。当時はみんなが貧しく家庭教師の職はありませんでしたから、殆ど筋肉労働をしました。その時海軍兵学校で鍛えた体力と気力が大いに役立ったわけです。随分いろいろなアルバイトを経験しましたが、死ぬ気で頑張れば何とかかなるという貴重な体験をしました。この学生時代の苦労が社会人になっていろいろ困難にぶつかった時に、大いに役立ったと思っています。

昭和27年3月に無事医学部を卒業し、王子病院で1年間のインターンを行いました。インターン終了後、北大第1内科に入局しました。昭和28年4月の国家試験を経て医師免許証を取得したのが昭和28年8月で、家庭の事情もあり直ちに王子病院内科に就職しました。その際中川諭教授が当時の王子病院の豊福院長宛に推薦状を書いて下さったのが印象に残っています。その後昭和31年4月から北大第1病理の研究生となり、昭和34年6月25日に論文が教授会を通過、8月31日に学位を授与されました。論文が通過した日は、私の長女の誕生日であり、巨人軍の長島選手が天覧試合でサヨナラ・ホームランを打った日でもあるという大変めでたい日です。

王子病院は、当時王子製紙(株)の付属病院でしたが、昭和42年10月1日から医療法人王子総合病院となり、経営を王子製紙より分離独立しました。初代の理事長・院長は佐久間三八先生で、私は昭和57年7月に院長、昭和59年7月に理事長・院長となり病院の経営・管理の責任を負うことになりました。佐久間先生は苫小牧RCのメンバーであり、1981~82年度のガバナーを務められました。医師としてもロータリアンとしても大先輩であります。私は昭和59年8月に友人の推薦により苫小牧北RCに入会しました。当時は病院の経営・管理の他、診療もしていましたので本業のほうが多忙で、積極的なロータリー活動は出来ませんでした。

王子総合病院は、苫小牧市および東胆振地区の基幹病院として長年地域医療に貢献していま

すが、表町の病院は老朽化、狭隘化が顕著となり、若草町の王子製紙の野球場跡地に新病院を建設することを決断しました。新病院は平成9年5月6日に開院しましたが、老人保健施設ケアライフ王子・在宅介護支援センター・訪問看護ステーションも同時に開設しました。これで保健・医療・福祉のあらゆる面で体制が一応整備されました。

ロータリーについては、病院の建設計画が決定した頃、ガバナーのお話がありお断りしましたが、その後再びガバナー・ノミニーのご指名を頂きお引き受けすることになりました。

1997年(平成9年)3月に正式に指名されましたので、新病院開院の直後であり多忙な日々を送ることになりました。しかし1998年7月のガバナー就任の直前、5月に病院理事長を後任者にバトンタッチし、名誉院長という気楽な立場で公式訪問を行うことが出来ました。名誉院長でも外来診療だけは週に2回続けていましたので、公式訪問の日程の調整には苦勞しました。

私のガバナー年度のRI会長は、ジェイムス・L・レイシーさんで、テーマは「FOLLOW YOUR ROTARY DREAM」。「ロータリーの夢を追い続けよう」でした。そして強調事項は「地域社会への関心事と子供たち」ということで、ロータリーを通じてこの世界を子供たちにとってより良いものにするために協力して下さいと呼びかけられました。このRI会長の方針を受け、私の地区運営の重点目標の第一に「新世代に関するプログラムの積極的推進」を取り上げました。そして地区大会において「新世代の未来を築くフォーラム」を行いました。このフォーラムには、手続要覧の第8新世代に記載してあるインターアクト・ローターアクト・青少年交換学生のみならず財団奨学生や米山奨学生にも参加してもらい、全く新しい発想で新世代を取り上げました。RI会長代理の中島治一郎PDGから高い評価を頂き、地区大会の評価はトリプルAであるとお褒めの言葉を頂いたのが印象に残っています。ガバナーとしては地区内のいろいろの行事に参加しましたが、WCS事業の新しいプログラムとしてタイの東北部の

第40回 5月13日(日) 天候/曇

ノンカイ県という貧しい地区の小中学校を訪問し、ノンカイRCの会員と協力して学用品の寄贈・給食の援助・トイレの改築・学校に常備する医薬品の寄贈・衛星放送受信システムの寄贈などを行いました。地区WCS委員長の対木さんを始め地区から14名が参加(私のクラブから6名)しましたが、タイの子供たちが本当に喜び手を合わせて感謝する姿に我々全員が深い感動を覚えました。

ロータリーの最終目的は世界の平和です。これからもロータリーには積極的に係わっていきたいと思っています。

私は現在、(財)ロータリー米山記念奨学会の常務理事を仰せつかっていますので、米山奨学会のことをお話をさせて頂きます。米山記念奨学事業豆辞典(2006~2007年度版)を基本にして、パワーポイントにて説明いたします。日本で学ぶ外国人留学生に対し、日本のロータリアンから寄付金を財源として奨学金を支給する事業であり、RIにおいても日本ロータリー独自の多地区合同奉仕活動として認められています。今までに106ヶ国13,322人の留学生を支援(2006年4月)しています。日本の民間最大の奨学財団であり、最大の特徴は「世話クラブ・カウンセラー制度」にあります。「カウンセラー」は、奨学生の生活や学業面などのよき相談相手として、精神面から支えます。寄付については、会員の皆様に米山奨学事業を理解して頂くことがもっとも重要です。私は、米山奨学会の財務担当理事として寄付増進についていつも協議しています。2005年度と2006年度の2年に亘って寄付増進のタスク・グループを作り、数名の米山奨学会理事および地区米山奨学委員長さんと一緒に話し合いました。地区によって事情が異なりますが、どの地区にも共通していることは、地区ガバナーがはっきり目標を示すことが最も重要だということです。ご承知のように当地区は残念ながら全国平均に達していませんが、今年度丸山ガバナーは、普通寄付と特別寄付の合計額16,000円を目標に掲げられました。この数字の根拠は、普通寄付4,000円+特別寄付1,000円(1ヶ月)×12=16,000円ということで誰に

も達成可能な額であると思われます。次年度も酒井ガバナー・エレクトは同額を目標にされるので、ご協力をよろしくお願い致します。

米山奨学事業を理解して頂くためには、米山奨学生または米山学友との交流が大切であると思いますので、地区米山奨学委員長および地区米山奨学委員または私に遠慮なくお申し付けください。特に米山奨学生をお世話したことのないクラブには、積極的に卓話に呼んで頂きたいと思います。

米山奨学事業の意義については、米山学友の活躍を見ると良く理解できると思います。米山奨学事業豆辞典のp15~p17に9名ほど紹介されていますが、米山学友の群像という小冊子に詳しく紹介されていますので是非目を通して下さい。米山学友の一部をご紹介しますと、2002年から2年間駐日韓国大使を務められた崔相竜(チェサンヨン)氏。米山学友として最初のガバナーであり、「超私の奉仕賞」受賞者そして韓国学友会の初代会長でもある林隆義氏。2005~06年度に台湾出身で最初のガバナーを務められた許国文氏。台湾セブンイレブンを統括する台湾最大の流通企業、統一超商株式会社の代表取締役社長の徐重仁氏。この方は1995年に台湾の米山学友を中心に台北東海RC(公用語は日本語)を結成し、初代会長に就任された。また台湾の米山学友会として社団法人中華民国扶輪米山会を立ち上げ、初代理事長を務められました。ネパールのギリ・ラム氏は、奨学金案内で読んだ米山梅吉氏の生き方に感銘を受け、室蘭工業大学時代に「北海道マルデイコラ・ネパール教育基金」を設立。母国の中高生へ奨学金を支給するほか図書室の設置、学用品の寄贈、大人を対象とした識字教室開催、村への電力供給など総合的な教育環境作りに尽力しています。2005年4月から三井物産戦略研究所に勤務しつつ、母国のための活動を続けています。彼は私のガバナー時代に米山奨学生で、苫小牧における地区大会の「新世代の未来を築くフォーラム」に、ネパールの国旗を持って奥さんと共に参加してくれました。そういう縁で彼の教育基金に少々応援しています。

米山奨学事業は、日本のロータリアンが築き上げた、国際平和に資する奉仕活動です。米山奨学生および米山学友に接してみて感ずることは、彼らは将来、母国と日本の架け橋になりたいという気持ちを強く持っていることです。この事業が日本にとっても我々日本のロータリアンにとっても、大変有意義な事業であることをご理解頂いて、今後ともご協力をお願い致します。米山奨学事業はこれからも改革を重ね、皆様と共に歩んで参ります。

以上いろいろ申し上げましたが、ロータリーが私の人生にどう影響を与えてくれたかということを考えて見ますと、思いやりと助け合いの精神を植え付けてくれたという事を素直に認めたいと思います。これからの余生もロータリアンとして、奉仕の精神を持ち続けたいと思います。

長時間に亘りご静聴頂き誠に有難うございました。

R | 第2510地区第1グループ「研修・交流会」プログラム

14 : 00	受付開始	
	開 会	総合司会 対 馬 健 一
14 : 30	点 鐘	国際ロータリー第2510地区第1グループ ガバナー補佐 澤 田 茂
	国歌斉唱	
	ロータリーソング「奉仕の理想」	
	来賓・参加クラブ紹介	澤 田 茂
	歓迎の言葉	留萌ロータリークラブ会長 中 川 勝 美
	ガバナー補佐挨拶	澤 田 茂
	ガバナー挨拶	国際ロータリー第2510地区 ガバナー 丸 山 淳 士 様
	(休 憩)	
	記念講演 「ロータリーと私の人生」	国際ロータリー第2510地区 パストガバナー 伊 藤 長 英 様
	謝 辞	澤 田 茂
	次期ガバナー補佐発表	澤 田 茂
	本年度ガバナー補佐へ記念品贈呈	
	閉 会	
16 : 00	点 鐘	澤 田 茂
	諸事お知らせ	S A A 原 田 功
	(休 憩)	
	「憶えていてくださいロータリー災害への救援」V T R 上映 (1 階会議室)	
	第1グループ 会長・幹事会 (別室)	
16 : 30	懇親会	
	開会の挨拶	接待委員長 渡 邊 裕 久
	乾 杯	深川ロータリークラブ会長 寺 岡 義 人 様
	余 興	
	万 歳	羽幌ロータリークラブ会長 伊 原 重 孝 様
	ロータリーソング「手に手つないで」	
18 : 00	閉 会	

RI 第2510地区第1グループ「研修・交流会」

